

分科会「国際平和につながる国際協力支援」

JEA 宣教フォーラム@九州

19.11.11~12 博多キリスト教会 <http://hakatayoukai.web.fc2.com/>

日本伝道会議第 6 回 プロジェクト「ビジネス宣教協力の次世代構想」

日本伝道会議第 7 回 プロジェクト「国際平和につながる国際協力支援」

PL 青木 勝 masaruaki.dnj@gmail.com

1. プロジェクト「ビジネス宣教協力の次世代構想」の要件遷移

1) ビジネス宣教協力 BAM(Business As Mission)とは

- ① 「使命 Mission としてのビジネス Business」は、宣教の使命が仕事(職域、地域、ボランティア、学校、家庭など)に活かされることである。震災・テロからの復興・再生・医療、移民・難民・DV など、緊急課題に取り組む地域・業際ネットワークを担う信徒方が、ビジネスを通して開拓する包括的な宣教協力のアプローチと捉える。
- ② 歴史観と世界潮流をふまえ、多文化共生社会における受け皿ネットワークの文脈共創により、強靱な変革 Resilient Innovation が生み出される。未来 2030/2050 をめざし、社会変革・未来貢献を担い続ける次世代グローバル人材の興起が求められる。
- ③ 平和に向けた持続可能な成長をめざし、社会的、経済的、環境的、精神的ニーズに対応する次世代アーキテクチャーにより、受け皿ネットワークの拡大が求められる。
- ④ Workplace ministry(職域伝道)は、国や地域によっては Compliance 違反となるため、BAM の一環として捉える。
- ⑤ ローザンヌ運動における Issue(37 カテゴリー)の展開 : BAM と Workplace Ministry に加え、Creation Care, Cities, Diasporas, Health in Mission, International Student Ministry, Ministry Collaboration, Technology などが関連し合う。

<https://www.lausanne.org/all-issue-networks>

2) JCE6 のプロジェクト「ビジネス宣教協力の次世代構想(P8)」の目標と展開

- ① プロジェクト運営 : JCE6(2016)におけるテーマ「再生への Re-VISION~福音・世界・可能性」を具体化させる各 JCE6 プロジェクトの目標と成果を見直し、包括的な宣教協力アプローチとして JCE7(2023)に向けた更改と連携が求められる。
- ② 目標の見直し : 「未来 2020/2030/2050 をめざし、多文化共生社会における共存・協働により、社会変革・未来貢献を担う次世代グローバル人材を支える宣教協力」は、ANRC オープンフォーラムの実績広報参照。Tokyo2020~SDGs2030 と並行推進される JCE6(2016)~JCE7(2023)~JCE8(2030)に向け、後半 4 年では、JCE7 プロジェクト 「国際平和につながる国際協力支援」にフォーカスし、開拓事例とインフラ整備を並行推進し、ANRC(<https://allnations.jp/>)で逐次情報発信予定。
- ③ 基調聖句は、ローマ 8:17-24(共同相続、被造物全体苦)、ピリピ 3:16-21(基準、国籍天在)、コロサイ 1:24~29(奥義、栄光希望)とする。

- ④ 環境要件変化に対応するべく、以下の次世代アーキテクチャーが求められている。
- ・ 包括的な宣教協力に向けた基調聖句は、「**福音を受け継ぎ**」(I ペテロ 3:8-9)、そして「**世全体の罪を贖う**」(ヨハネ 1:29、1 ヨハネ 2:2)と捉える。受け継ぐには、継承と開拓の並行推進が求められる。世全体の罪は、テロ、戦争、震災、飢餓、貧困、差別、海洋ゴミなど平和な環境に反するものとして捉える。
 - ・ スマートライフと 100 歳時代を支えるガバナンスとサイバーセキュリティーに対応する情報共有と祈祷連携に向けたインフラ整備が求められる。
 - ・ Creation Care に向けた行政ネットワーク(国連や政府自治体、NGO/NPO/CSO)、地域・業際ネットワーク(宣教団体や教会、超教派ミニストリー)、隣人チームワーク(Christianity, Muslim, Hindu, Buddhism)の協力・連携が拡大される。
 - ・ アジアにおける日本、日本におけるアジアの双方向の動向を捉え、タスク(BAM)を担い支えるリソース(GDN, Global Diaspora Network) の整備を拡大する。

3) 歴史観と世界潮流

- ① 戦後 70 年(2015)におけるミレニアム開発目標 MDGs2015～持続可能な開発目標 SDGs(2030)に向け、Tokyo2020～SDGs2030 に展望される「震災復興から心のバリアフリー」に対する包括的宣教協力 Recovery & Renewal from Disaster to Barrier free mind care during Tokyo2020 and SDGs2030 が求められている。
- ② 「被造物ケアに向けたビジネス宣教協力を担い支えるディアスポラ宣教協力」Business As Mission with Global Diaspora Network for Creation Care は、スコピエ地震(1963)や成長の限界(1972)を経てローザンヌ運動につながり、ローザンヌ運動・世界福音同盟共催の「被造物保護と福音」LWCCN(Lausanne/WEA Creation Care Network)に進展しつつ、行政ネットワーク(国連/政府自治体、NGO/NPO/CSO)と地域・業際ネットワーク(宣教団体/教会、超教派ミニストリー)の受け皿連携により、包括的な宣教協力をめざす開拓事例が積み上げられて行く。
- ③ 国際関係の展望：21 世紀の国際動向は、超国家ベースの利益と利得で動いて行く、イデオロギーや宗教による友好や敵意に影響されるものとして捉え切れない事例が拡大しつつある。超国家の時代における移民・難民やサイバーセキュリティーの課題に対し、インド太平洋戦略や未来の大国(アフリカ連合 African Union、イラン、イスラエル、インドネシア、北朝鮮、ベトナムなど)をつなぎ合わせる日本の潜在力や国際協力を支える持続可能な宣教協力を開拓・刷新し続けたい。

4) JEA 宣教フォーラム@九州のテーマ

- ① テーマ「福音のために共に戦う 教職・信徒の宣教協力(ピリピ 1 章)」に整合するべく、「アジアにおける日本」と「日本におけるアジア」の双方において、行政ネットワークと地域・業際ネットワーク(教会ネットワークを含む)の文脈共創により、日本宣教を通じたアジア宣教をめざす。Tokyo2020～SDGs2030 に先駆けて、多文化共生社における防災と心のバリアフリーを率先垂範して行くことが求められている。

② 九州・沖縄における豪雨災害

九州防災ポータルサイト

http://www.qsr.mlit.go.jp/bousai_joho/kyusyubosai/

③ 東京・荒川流域の洪水対策

江東5区大規模水害ハザードマップ

<https://www.city.koto.lg.jp/057101/bosai/bosai-top/topics/documents/haza-do.pdf>

④ 福岡市の心のバリアフリー

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/hofuku/chiiki-fukushi/health/kokorobf.html>

「心のバリアフリー Barrier free mind」とは、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことです。各人がこの「心のバリアフリー」を体現するためのポイントは、「ユニバーサルデザイン2020 行動計画(2017/02)」では、以下の3点とされている。

・障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル」を理解すること。

・障害のある人（及びその家族）への差別（不当な差別的取扱い及び合理的配慮の不提供）を行わないよう徹底すること。

・自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションを取る力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し共感する力を培うこと。

2. 九州における文脈共創

1) Trend : 未来 Innovation in 九州 2019

2) アジア支援 : NEDO Forum : グローバル水市場への日本企業の取り組みと技術戦略

3) 大学の挑戦 : 九州大学〔CRISPER-Cas9のゲノム編集技術、先端医療イノベーションセンター、病院・医療連携センター、病院・アジア遠隔医療開発センター、医学部保健学科(チーム医療加速)、病院がんセンター 緩和ケアチーム、熱帯農学研究センターなど〕、立命館アジア・太平洋大学(APU)の JICA 受託研修

4) ホテル : JR 九州ホテル Blossom Hotel、ANA InterContinental 別府リゾート&スパなど

3. 未来 2030/2040/2050 に向けた文脈共創

1) 2030 の世界 : 九州の未来力 2030(福岡財務支局)、九電グループ経営ビジョン 2030

2) 2040 の世界 : 九州の人口予想 2040(JC net)、単身世帯が 40-50%に到達。

3) 2050 の世界 : NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)先導研究(未踏チャレンジ 2050)、2050年の日本(みずほフィナンシャルグループ 2017)など

4. アジアにおける被造物ケアの進展

- 1) 主催と会議体：ローザンヌ運動・世界福音同盟共催による「被造物保護と福音お」の東アジア地域会議 <http://lwccn.com/>
East Asia Regional Conference for Creation Care and the Gospel by Creation Care Network of Lausanne Movement/World Evangelical Association (LWCCN)
- 2) 期間：17.07.24(月)～28(金)
- 3) 場所：臺灣基督長老教會聖經學院 新竹市高峰路 56 號 <http://www.pbc.org.tw/>
Cf. 台湾基督長老教会 國際日語教会 <http://nichigo-church.com/>
- 4) 経緯：「被造物保護と福音ネットワーク」の東アジア地域会議の国際企画グループに、日本ローザンヌ委員会・日本福音同盟 JLC/JEA の連携窓口 liaison として半年参加し、日本の構想や事例を提示し分科会を複数提案。日本伝道会議第 6 回 JCE6(2016)～第 7 回 JCE7(2023)に推進中の「ビジネス」や「環境」、「災害」など関連プロジェクトを通して、日本が主導する国際協力と内外宣教協力の情報共有と祈祷連携を推進。更に、ローザンヌ運動(BAM, GDN, CCN)や、ローザンヌ・ビジョンリトリート、JEA 宣教フォーラムや ANRC Open Forum4、アジア宣教フォーラムなどを通じた宣教協力を推進。
- 5) 日本報告 Japan Report 「包括的なアプローチ Inclusive approach for Creation Care」：JCE6 プロジェクト「ビジネス宣教協力の次世代構想」として、被造物保護に向けたビジネス宣教協力を支えるディアスポラ宣教協力の経緯と事例が報告された。東京オリンピック(1964～2020)に代表される 1960s～2010s の国際協力 60 年余りを通じた日本の内外宣教協力が報告された。特に、国連や ODA、NGO/NPO、宣教団体/教会が協働推進-している ESG(環境・社会・企業統治)への取組みを通し、社会の持続可能な発展と新たな共通価値創造 Creating Shared Value(CSV)を担う国際人・国際家族主体の包括的な宣教協力が提唱された。国連グローバルコンタクトや国連環境計画と整合し、隣人チーム (Muslim/Hindu/Buddhist)による包括的なアプローチを通し、Beyond Stewardship and Partnership の展開が推進されている。
- 6) 分科会：環北西太平洋の海洋環境保全、地域包括ケアにおける小児在宅医療、食糧危機・食品保全などの事例が紹介され、アジア展開が求められる。Tokyo2020～SDGs2030 に向けて、YLG(2016)～LWCCN/EAC(2017)～YLG East Asia(2019)～BAM Global Congress(2020)～LCWE4(2024)がつながり、包括的な宣教協力アプローチに向けた次世代アーキテクチャーの整備が加速されている。

5. 日本主導プロジェクトの動向

- 1) 阪神淡路第震災(1995.01.17)を契機とした NGO の形成とアジア貢献
 - ① Asian Disaster Reduction Center(ADRC 1998～)
 - ② Disaster Reduction Learning Center(DRLC 2007～)
 - ③ 全国地震動予測地図(2018.06)における震度 6 以上の都市への対応：**千葉市 85%、横**

浜市 82%、水戸市 81%、静岡市 70%、東京都庁 48%、名古屋市 46%など

- 2) アジア防災会議 ACDR(Asian Conference on Disaster Reduction) : ACDR 2003(03.01.15-17 神戸)~2015(15.03.15 仙台)
- 3) 国連防災世界会議 WCDDR(World Conference on Disaster Risk Reduction) : 第1回 (94.05.23-27 横浜)、第2回(05.01.18-22 神戸)、第3回(15.03.14-18 仙台)
- 4) 日本におけるビジネス宣教協力 BAM の中長期構想 : 多様な環境との共生社会〔環境保全・保護、地域防災、地域包括ケア(医療、看護、介護、心のケア)〕、多様な人々の共生社会〔ディアスポラ(移民・難民)、障害者(障害者差別解消、少子高齢化)〕を推進中。
- 5) ESG(環境 Environment、社会 Social、企業統治 Governance)による経済活動の推進と国際的評価が推進されており、Tokyo2020に向けた素材調達も厳しくチェックされる。
- 6) 水産養殖のステewardシップ Aquaculture stewardship : 北カリマンタン 海と森の保全プロジェクトは、現地加工会社の PT. Mustika Minanusa Aurora とニチレイフレッシュとともに、この養殖業が環境や社会に配慮した持続可能なエビの生産が行われるよう、養殖改善プロジェクト(AIP)を実施。世界自然保護基金やアジア GAP 総研の支援拡大。
- 7) 空気をはぐくむ森プロジェクト Forests for the Air : DAIKIN と国際 NGO/Conservation Int'l が、2014.06~2024.05 に世界7カ所で約1,100万 ha の森林保全を推進中。
- 8) 日本の NGO/東南アジア文化友好協会 SAFCA : カンボジア絆フェスティバル 2016/2018 において、ミレー生誕 200 周年記念公演を通じたエコロジーを担う次世代グローバル人材育成企画や Creation Care in Cambodia を提案。
- 9) 環北西太平洋環境保全、スマトラ沖地震、熊本地震、北海道地震
- 10) 100 歳時代におけるマルチリンガルとマルチステージのモデル形成
- 11) メガ FTA 時代における ET & IoT/IoE の先進パートナーシップによる持続可能な成長
- 12) Anti-Creation Care Issue(情報&サイバーセキュリティ)への持続可能な成長
- 13) 未来 2030 におけるエネルギーミックスによる持続可能な成水素・再生可能エネルギーの国際間サプライチェーン展開による持続可能な成長
- 14) 労働開国(2019.04)に対応した隣人チーム・ネットワークとの共生、協働、共創の加速
- 15) Tokyo2020 におけるバリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱(2013/10/18)
- 16) Tokyo2020 におけるパラリンピックサポート

Ottobock <https://www.ottobock.co.jp/>

オトターボックはパラリンピックのパートナーとして、ソウル大会(1988)以来 30 年にわたり世界中のアスリートをサポート。修理サービスはモーターレースのピットと同じような役割を担い、競技使用の義肢装具、車いすを修理、メンテナンスして、アスリートがなるべく早く競技に戻れるようにサポートし、人々にとって重要なモビリティに貢献している。障がい者がより広い世界で活躍し、健常者との共生を実現できるよう、“Passion for Paralympic”を世界中の人々と共有して行きたい。

6. ビジネス宣教協力の次世代構想のロードマップ

17.02.18 東京	ANRC Open Forum 第3回「小児・若年障害者の在宅医療」
17.07.24-28 台北	LWCCN/EAC (LCWE3 と COP10 の同時開催における被造物ケアの日本動向、宣教協力開拓事例による神学アプローチの変革)
17.08.21-22 箱根	JLC Vision Retreat(フィリピンにおける被造物ケア)
17.09.25-26 神戸	JEA 宣教フォーラム@神戸
17.10.07 東京	ANRC Open Forum 第4回「被造物ケアと国際協力60年」 (カンボジアにおける被造物ケア、地域包括ケア)
17.11.25 東京	VIP 国際交流 Wataridori「Creation Care in Cambodia」 (NGO 東南アジア文化友好協会、NPO 希望の車椅子、2世代にわたる国際ファミリーの国際協力と地域コミュニティー)
18.02.03 東京	ANRC Open Forum 第5回「アジアにおける被造物ケア」
18.02.24 プノンペン	Kizuna Festival「Creation Care in Cambodia」
18.03.17 東京	VIP 国際交流 Wataridori「Creation Care in Asia」
18.08.20-21 箱根	JLC Vision Retreat(宣教協力の次世代アーキテチャー)
18.09.24-25 名古屋	JEA 宣教フォーラム@東海「ゆるやかな宣教協力と Re-VISION」
18.10.06 東京	ANRC Open Forum 第6回「ゆるやかな宣教協力と次世代構想」
18.11.22-24 東京	日本青年伝道会議第2回 NSD2 (NSD 2012)
19.01.24, 03.20, 07.18, 09.29 東京	ひろばグローバル
19.02.06 東京	ANRC Open Forum 第7回「Tokyo2020 とアジア宣教協力」
19.03.31 東京	JCE6 プロジェクト中間報告
19.05.25 東京	在欧日本人宣教会におけるポーランド日本語集会の開拓提案
19.07.20 東京	Creation Care Forum 第1回(カンボジア、ラオスの医療支援)
19.07.20 東京	ベトナム語礼拝第1回(東京国際日暮里教会)
19.08.19-20 箱根	JLC Vision Retreat(3世代による次世代アーキテチャー)
19.09.30 東京	JOMA(海外宣教協力連絡会)宣教セミナー
19.10.05 東京	Creation Care Forum 第2回(バングラデシュの医療支援)
19.11.04 東京	Ethnic Ministries Network Japan 第2回
19.11.16 東京	ANRC OF 第8回「九州・アジアの次世代ネットワーク」
20.02.08 東京	ANRC OF 第9回「アジアの医療サービスネットワーク」
20.2.22 Phnom Penh	Kizuna Festival 2020/Creation Care in Cambodia
20.4.29-5.3 Jomtien	BAM Global Congress 2020
20.11.2-6 Bangkok	ASIA2020

7. 中長期展望(Tokyo2020～SDGs2030)

1) ビジネス宣教協力とディアスポラ宣教協力の要件変化

- ① ビジネス宣教協力(国際協力タスク)を担い支えるディアスポラ宣教協力(国際人・国際ファミリーというヒューマン・リソース)は、相互に連携され統合され包括的な宣教協力アプローチとして整備されつつある。被造物ケアに向けた震災からの復興・再生(トラウマ対応)、持続可能な成長に向けた技術革新による未来産業の両領域について、国際協力による宣教協力という次世代アーキテクチャーが整備されつつある。
- ② 国内居住外国人が急増し課題も多様に拡大しているため、ディアスポラ宣教協力が内外の受け皿窓口となり、多様な人々の交流や情報流通機能の進展が期待されている。コミュニケーション標準は英語になるため、外国人や国際人中心の運営が求められる。
- ③ 日本の国際協力による世界貢献は、国際協力 60 周年(2014)を経て Tokyo2020～SDGs2030 の要件・シナリオが、日本政府の広報外交として 2013 以降展開されている。**Tokyo1964 は「復興・再生」をめざし、Tokyo2020 は「心のバリアフリー」による共生社会をめざしている。**再生医療や宇宙産業をなど未来産業は、Society5.0 による技術インフラの開拓を心のバリアフリーが支える強靱な変革 Resilient Innovation へと進展している。
- ④ ESG(環境 Environment・社会 Society・企業統治 Governance)と SDGs の取り組みによるビジネスにおける世界的な評価と推進は、国際協力の変革につながる。
<https://www.koki-holdings.co.jp/csr/esg/esg.html>
<https://sustainablejapan.jp/2016/05/14/esg/18157>

2) 文脈共創： 社会変革を担い支える国際協力を通じた宣教協力として、歴史観と世界潮流をふまえ持続可能な成長をめざしている。3 世代並行推進による未来貢献を担い支える次世代アーキテクチャーによる包括的な宣教協力が期待される。

- ① ロボットと人間の共創: AI・シングラリティー、Society 5.0 など
- ② 国際間水素サプライチェーン: ブルネイからの調達と川崎市の脱水素プラントなど
- ③ 海洋産業; マイクロプラスチックのごみ対策と石灰石製 LIMEX の開発
- ④ 宇宙産業: 宇宙技術によるリスク対応、被造物ケアや復興・再生の進展
 - ・ **タイ恫喝救出**は、宇宙航空研究開発機構 JAXA の地球観測衛星「だいち 2 号」が上空通過時の地形画像を撮影しタイ当局へ無償提供し、英国人潜水士を支援。
- ⑤ 未来産業: 地域・業際ネットワークによる持続可能な成長
 - ・ 光産業創生大学院大学 GPI(2005 浜松)
 - ・ N高等学校(2016); 沖縄、分校(東京、大阪、横浜、大宮、千葉、名古屋、福岡)
 - ・ eスポーツ(Electronic Sports): パリオリンピック(2024)公式種目
- ⑥ ゲノム編集による遺伝子治療: がんや難病対策につながる取り組みが進展している。
- ⑦ 再生医療: 人工多能性幹細胞(iPS 細胞)を用いた移植手術、心と体にやさしい免疫細胞療法など QOL 向上に有効な取り組みが進展している。

- ⑧ 心のバリアフリー：バリアフリーとは、多様な人が社会に参加する上での障壁（バリア）をなくすことである。多様な人たちのことが考慮される社会は、心身機能に障害がある人などにとって様々なバリアを乗り越え、多文化共生社会が実現する。
- 3) 被造物ケアに向けたアジア宣教協力の次世代ネットワーク開拓
- ① 政府・自治体、NGO/NPO、事業体と CSR とつながりのあるネットワークを通じた宣教協力：カンボジア絆フェスティバルにおける「Creation Care in Cambodia」
 - ② 在日外国人留学生、国際人・国際ファミリーとつながりのあるネットワークを通じた宣内外に教協力：震災対応の復興・再生の支援ネットワーク
 - ③ ANA インターコンチネンタル別府リゾート&スパの 2019 開業に伴う立命館アジア太平洋大学との関係
- 4) Tokyo2020 を契機とした「**日本宣教を通じたアジア宣教**」の進展に向けた受け皿窓口
- ① 宣教協力における海外からの日本へ、日本から海外へ双方向のアプローチ
 - ② 政府・自治体、NGO/NPO と宣教団体・教会における宣教協力の受け皿ネットワーク
 - ③ 隣人チーム・ネットワーク(Muslim/Hindu/Buddhist など)との共創による文脈形成を担い支える宣教協力
- 5) 受け皿組織の標準ガイドライン
- ① 組織は、しがみつくものでもよじ登るものでもない、それぞれが地に足をつけて踏ん張って支えるものである。一人一人が創るものである。
 - ② 事件の経緯には、本人と支えるもの双方の信頼と挑戦がある。バックグラウンドや経験の相異によって、理解を超えた領域に及ぶものがある。
 - ③ 人はつながって生きている。大勢の人に支えられて生きている、一人ではない。
- 6) 日本科学未来館
- ① つながりプロジェクト：私たちは、地球について、自分について、いったいどれほどのことを知っているのでしょうか？この問いを出発点に、日本科学未来館では、「Geo-Cosmos」「Geo-Scope」「Geo-Palette」「Geo-Prism」の4つのツールを用い、「つながり」プロジェクトを展開しています。「つながり」プロジェクトは、科学情報の視覚化と共有と感性に届く表現により、今の地球、今の自分についての「知」を深め、未来のビジョンをともにつくり上げることを目指したプロジェクトである。人間と地球とのつながり、生命のつながりの中に自分の存在を位置づけ、未来につながるために何をすべきかを共に考えるミッションである。"中心のない地球"という、多様な分野の境界を越え、知と感性を融合させ情報を発信して行く。
 - ② ヨコハマプロジェクト <http://yokohamapi.org/>：多様性を認め合い、力を発揮できるレジリエントな社会づくり、互いを認め合い、ともに力を発揮できる社会づくり、そして、逆境を成長につなげられるレジリエントな社会づくりへの貢献をめざし、横浜を拠点に活動中。

Creation Care Forum (1)

19/07/20 SAFCA

NGO/NPO 連携がつなぐ被造物ケアフォーラム 行政と教会の共創による次世代アーキテクチャー

国連の貧困対応をめざしたミレニアム開発目標 MDGs(2015)の後継となる持続可能な開発目標 SDGs(2030)に向け、ローザンヌ運動 WEA 共済の被造物ケアネットワーク(LWCCN)が展開される中、日本では「被造物ケアに向けた NGO/NPO 連携」が進展している。「被造物ケアに向けた国際協力を行政と教会の共創が担い支えるスタイルは、日本のインフラ整備主体の次世代アーキテクチャーとして、LWCCN 東アジア会議(2017)で紹介され、例年 2 月にプノンペンで開催されるカンボジア絆フェスティバルでも紹介されてきた。そして、「行政と教会の共創による緩和ケア」は、医療支援を通じた包括的な宣教協力アプローチとして今後益々期待されている。カンボジア・ラオス・ミューンマーなどメコン河流域における包括的な支援・サービス提供システム、地域包括ケアとして、何が求められているかその変革の動向を捉え、赤十字と宣教協力の両面から対策やチューニングが考案されつつある。

カンボジアでは、2010 年代に有機無農薬オーガニックファームや食品加工が拡大する中、医療サービスの変革が求められてきた。交通事故が急増する中、都市と地方の医療ネットワーク整備は大きな課題になっている。行政ネットワークは、国連や政府自治体、NGO/NPO/CSO で構成され、教会ネットワークは、教会や宣教団体や超教派ミニストリーなどで構成される。NGO/NPO による横断的な受け皿ネットワークは、国際協力を担い支える国際人・国際ファミリーにより両系がつなぎ合わされ、開拓事例をつくりあげている。震災・復興とテロ・防災に向けた国際協力は、心のバリアフリーを掲げる Tokyo2020 を契機に、日本伝道会議第 7 回(2023)とローザンヌ世界宣教会議第 4 回(2024)を経て、SDGs(2030)へつながる 2020 年代のメインストリームとして加速されつつある。

「被造物ケアフォーラム Creation Care Forum」第 1 回(19/7/20)は、日本留学生や外国人労働者との交流を未来の共創につなげて行くために、NGO 東南アジア文化友好協会、国際 NGO サイド・バイ・サイド・インターナショナル、NPO 希望の車いすが連携して開催された。カンボジアとラオスにおける医療支援について、佐々木明子さんと高木とも子さんによる発題と意見交換が行われた。個別プロジェクトではフォローアップがないため長期サポートが困難なケース、ニーズの変化に対応できていないケース、緩和ケアにおける身体の痛みと心の痛みのシナジーがつかまらないケースなどが現場から報告されている。国際協力は、JICA をはじめ NGO/NPO のインフラ連携が益々求められている。被造物ケアフォーラム第 2 回(19/10/5 OCC402)は、バングラデシュにおける次世代アプローチをテーマに開催され、JEA 宣教フォーラム@九州(19/11/11)でも報告される。

Creation Care Forum (2)

19/10/05 SAFCA

多文化共生社会における被造物ケアの開拓事例 バングラデシュの女性障がい者と共に歩んで

被造物ケアと福音 Creation Care and Gospel をテーマに、ジャマイカ行動への呼びかけ Jamaica Call to Action が 2012 年 11 月 9 日に宣言された。ローザンヌ世界宣教会議第 3 回 LCWE3(2010 ケープタウン)を経て、ローザンヌ運動(1974)と世界福音同盟(1846)が共催する被造物ケアネットワーク LWCCN が組成され、地域別会議が展開される起点となった。東アジア会議(2017 台湾)では、日本代表は企画から参画し、世界とアジアの動向をつなぎ合わせてきた。振り返ると、課題先進国日本からの代表は、国連生物多様性条約締結国会議 COP10(2010 名古屋)が同時開催されていたため、ケープタウンでは最重要な祈禱課題として提起した。遡れば、20Tokyo2020 の主要テーマは「心のバリアフリー」であるが、Tokyo1964 は「復興・再生」であり、マザーテレサの故郷スコピエ地震(1963)の復興・再生に日本の国際協力があつた、その当時からの複数世代にわたるバックグラウンドにより、受け継がれてきた包括的なビジネス宣教協力のアプローチがあつた。自然災害大国日本のリスク管理は、20 世紀に起こされ、21 世紀にはサイバーセキュリティを含め、国民すべてに日常のインフラ要件として求められている。多文化共生社会における受け皿ネットワークの協働・共創による強靱な変革 Resilient Innovation は、ふつうのこととして受けとめられ取り組まれている。アジアからの留学生は、専門領域は元より、災害・テロ、移民・難民・DV などの社会インフラ整備が緊急・重要課題として求められることを真摯に捉え、Tokyo2020 テーマの如何に係わらず、世の中のバリアフリーにも反平和にも邦人と共に挑戦している。

さて、被造物ケアフォーラムでは、第 1 回の「ラオス、カンボジアにおける医療支援」に続き、第 2 回は「バングラデシュの医療支援」に取り組んだ。バングラデシュの今、変革の波について、留学生 OB と日本・バングラデシュの国際ファミリーが発題された。続いて、日本キリスト教海外医療協力会 JOCS より派遣され、2018 年まで理学療法教育をしてこられた山内章子さんより、「バングラデシュの女性障がい者」の今が語られた。「依存し易い傾向のある女性たちが、自分たちの決定や行動に自信を持ち、彼女たちの方法で活動してよいことを後押ししてきた。成功からは何も学べない、失敗から多くのことを学ぶと強調して、失敗を受け入れる力をついたと思う。また、イスラム教の人も、ヒンドゥ教の人も、キリスト教の人も、宗教を超えて、自分たちの活動を妨げる一人一人の名前を挙げて祝福を一緒に祈ることを提案し、彼女たちはその提案を素直に受け入れ、朝の祈禱会を継続している。今や守られていた彼女たちが同じ障がいをもつ人々を守る側として活躍している。」と語られ、深い感動に包まれた。

第 3 回企画は、カンボジアの絆フェスティバルを通し、被造物ケアに向けた NGO/NPO 連携にフォーカスして行きたい。